



大森隼人
胃食道外科部長

やまなし医療

最前線

県立中央病院から

〈319〉

山梨県立中央病院は本年度、肥満症患者の胃を小さくして減量を目指す手術を導入した。重症な肥満症患者の中で、生活習慣の改善

や薬物治療に取り組んでも十分に減量できない場合に限り減量手術を提案する。病院によると、県内医療機

関で減量手術を取り入れたのは初めて。

手術は腹部に開けた小さな穴に腹腔鏡を入れ、組織を切り取って縫い合わせる器具（自動縫合器）を操作し、胃の一部を細長く切り

減量手術 県内で初導入 重症者対象 胃を部分切除

いう。がん患者の手術と異なり、食事の食べやすさに関わる胃の入口（噴門）や出口（幽門）部分は残す。胃を切除する範囲は患者の状況による。手術後に食物を摂取しても不快な症状

異常症などの健康障害が一つ以上あるか、BMI32以上35未満でかつ健康障害が二つ以上あることも条件だ。同病院は今年6月、肥満症患者への手術を初めて実

取る。食欲を増進させるホルモン「グレリン」の分泌も抑えることができる。「腹腔鏡下スリーブ状胃切除術」と呼ばれ、欧米では広く普及しているという。日本でも2014年に保険適用となった。

手術の時間は2時間ほど。体への負担は少ないと

が出にくいという。

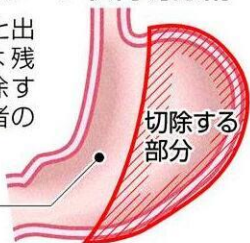
手術の対象は、生活習慣の改善や薬物治療に6カ月以上取り組んでも十分な減量効果が見込めなかった場合。この条件に加え、体重（kg）を身長（m）の2乗で割って求める体格指数（BMI）が35以上で、かつ肥満に伴う高血圧や脂質

施。既に10kg以上の減量効果があったという。今後も複数人の手術を予定している。

しかし、手術も万能ではない。胃の一部を切除すれば過剰な食欲が抑えられる一方で、食べる量が制限されるからだ。手術を担当する胃食道外

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術

※胃の入り口と出口の部分は残す。胃を切除する範囲は患者の状況による



科部長の大森隼人医師は「胃で一度切った部分は元に戻らない。おにぎり1個を食べるのにも時間がかかり、ラーメンは一気には食べられない」と説明。「患者に心構えがあるか、手術によるデメリットも丁寧に説明しながら、減量手術を広めていきたい」と話している。次回回は30日に掲載します